

学習材について

● 令和8年度用教科書からの変更箇所

(1) ローマ字の表について

従来のローマ字のつづり方には、第1表（いわゆる訓令式）と第2表（いわゆるヘボン式と日本式）の二通りがあった。令和7年内閣告示において、従来の第2表の一部に基づくつづり方が採用されて一つの表が示され、「si [shi]」のように二つのつづり方が併記されていた音については、「shi」のように一つのつづり方に統一された。本学習材では、この変更を反映している。

(2) 長音の書き表し方

長音の書き表し方は、従来、文字の上に長音符号を付ける書き方のみが示されていたが、改定後は二通り示された。一つは、「ā」のように文字の上に「-」を付ける書き表し方であり、もう一つは、平仮名で書き表す際と同様に母音字を並べる書き表し方である。基本は前者の書き方を用いるが、イ列長音で発音される語、エ列長音で発音される語のうちエ列の仮名に「い」を添えて書くものについては、母音字を並べる書き方が一般的であるとされた。また、長音符号が「^」から「-」に変更されている。例えば「商店」と「書店」など、音の長短で語を区別することがある日本語において、長音符号を付すことの必要性を確認し、長音の書き表し方の指導に当たられたい。

(3) ローマ字入力について

(1)(2)を踏まえ、ローマ字入力において特に注意を要するものに絞って提示した。なお、日本語の表記体系としてのローマ字と、入力の便宜としてのローマ字入力とは別物である。今改定は、従来のローマ字入力の方法に変更を求めるものではない。そのため、「ローマ字のつづり方」の対照表に示されたつづり方も示した。

指導計画例(全4時間)

指導目標

◎ 日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くことができる。(知(1)ウ)

時	学習活動	評価規準
1	①身の回りのローマ字表記について想起する。 ②ローマ字が使われている理由を考え、単元の学習のめあてを確認する。 ③本資料P7のローマ字の表を見て、ア行とその他の行の関係を知る。 ④ローマ字の表を見ながら、五十音を声に出して読む練習をする。	知 日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。[記述・観察] 関 進んでローマ字で表記されたものを読み、学習課題に沿ってローマ字で書いたり、入力したりしようとしている。[観察・記述]
2	①アルファベットの書き方やローマ字の表を参考に、五十音を書く。 ②ローマ字を使って、「黒板」「いす」「かばん」など、簡単な単語を書く。	
3	①本資料P8-9の「書き表し方の決まり」で特別な書き表し方を確かめる。 ②本資料P10の設問①②に取り組む。	
4	①ローマ字入力や変換の方法を理解する。 ②本資料P11の設問③に取り組んだり、自分の名前を入力したりする。	

参考

● 設問の解答

② hon'ya, shakai, takkyū (takkyuu)